

地域の未来をデザインする ～農村RMO伴走支援の手法～

持続可能な地域社会総合研究所 新田直人

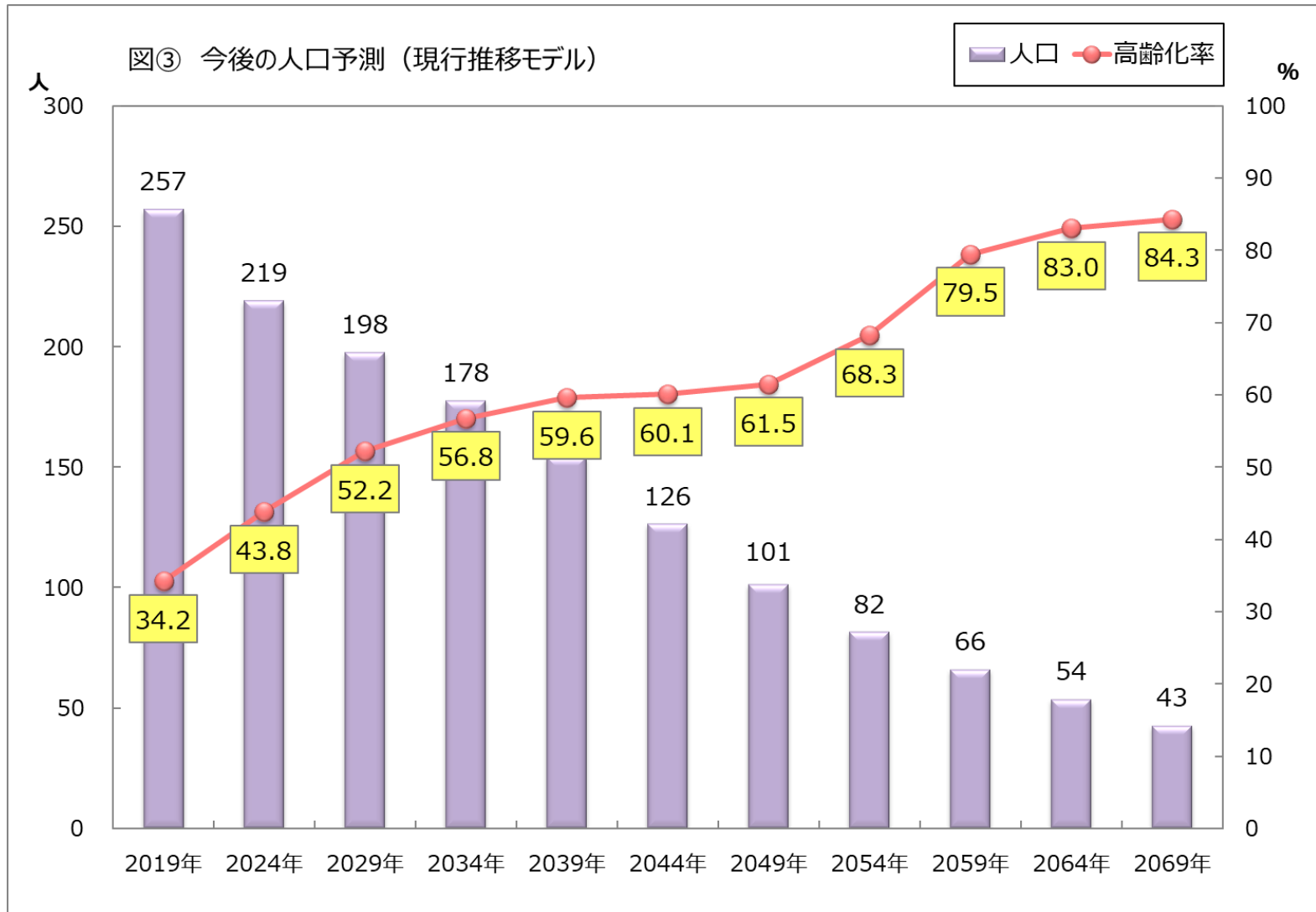
自己紹介

- 農林水産省職員。
- 2021年まで、岡山県真庭市で勤務。スマート農業、ジビエカー、Greenable HIRUZENの立ち上げなどに携わる。
- 2023年1月から（一社）持続可能な地域社会総合研究所（島根県益田市）に勤務。
- 富山県、福井県、島根県、岡山県、秋田県等で農村RMOの伴走支援に従事。
- 島根県邑南町と埼玉県杉戸町の二地域居住。



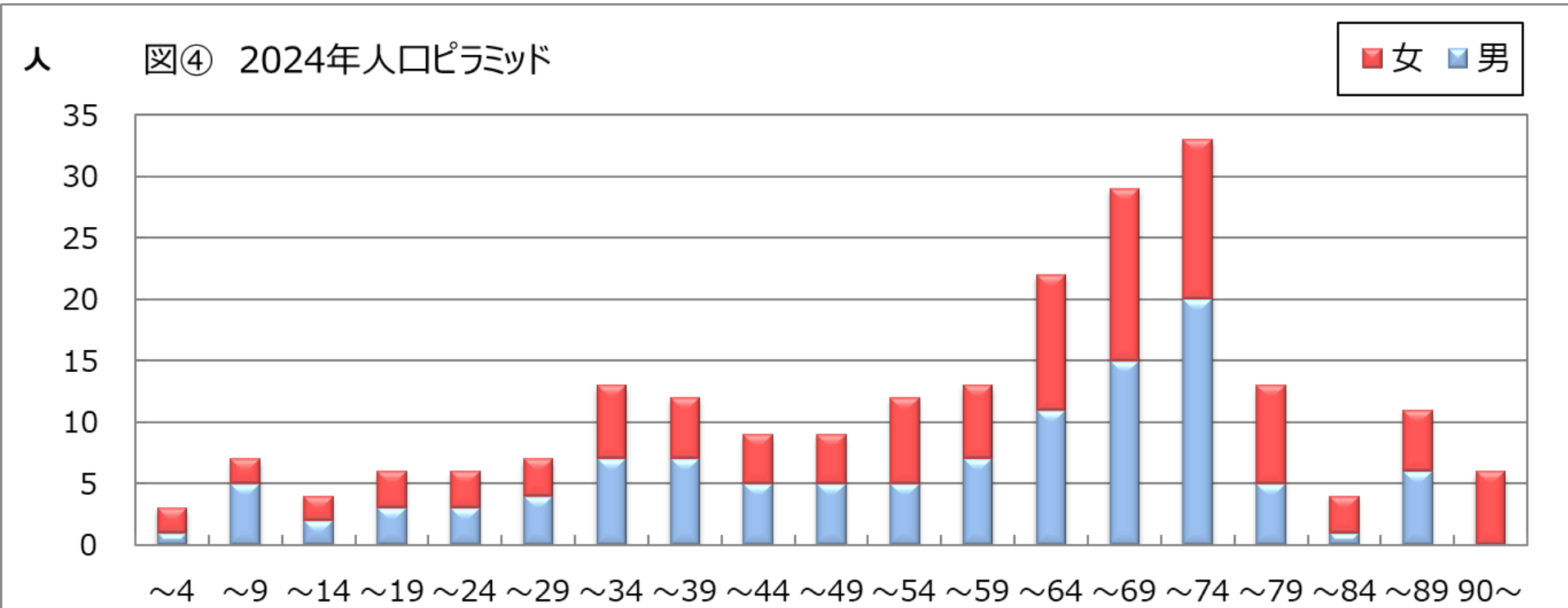
イントロダクション (A町)

○ A町B集落（89世帯、人口219人）の将来人口予測



5年間で10%、10年間で18%高齢化率が増加！

高齢化率の急激な上昇の理由は、60～69歳人口が多いため。



2029年には、高齢化率50%を超え、限界集落化？

集落の農地を誰が守るか（島根県邑南町）

農村RMOモデル形成支援 出羽地区 出羽地区運営協議会（島根県邑南町）



自治機能の再編と機能強化により地域人材・情報をフル活用し、農地・バイオマス資源・空き家等の低利用施設の活用を促進。UIターン者の確保や担い手の育成を図り、地域の持続可能性を高める。

#農福連携、#再エネ活用、#空き家活用、#田舎暮らし、#地域交通、#人材バンク

対象地域

- (事務局名)
出羽地区運営協議会
- (地域の範囲)
小学校区（12集落＋2団地）
- (土地面積（R4.4月時点））
2,779ha（旧出羽村面積）
- (農地面積（R4.4月時点））
101ha
- (世帯数（R4.4月時点））
325戸

構成員

- ・出羽自治会
- ・出羽地区社会福祉協議会
- ・出羽公民館活動推進協議会
- ・出羽商店会
- ・出羽協定（中山間直払）
- ・出羽保全組合（農地・水）

活動に関連する他の施策

- ・邑南町電力事業
- ・「デジ活」中山間地域
- ・中山間地域等直接支払交付金
- ・多面的機能支払交付金

取組内容

現状と課題

農用地保全

- オペレーター等の高齢化が進み、農業の担い手の確保が困難。
- ほ場整備の完了から約50年経ち、水路等の施設が老朽化。
- 鳥獣被害、資機材の高騰などにより、農地利用計画の具体化や新たな投資に対する意欲の低減。

地域資源活用

- 空き家・空き地等の低利用施設の増加。
- 名勝や観光施設・公園等の管理不足が顕在化。
- 食文化・伝統芸能等の地域資源・知的財産の伝承が困難。
- 情報発信・活用能力の未熟。

生活支援

- 高齢化に伴い農産物出荷や移動手段、日常の見守り機能が低下。
- 公園等の管理不足により子育て支援機能が低下している。
- 集落人口の減少により地域活動の維持が困難。

課題に対する対応方針

- 農地棲み分け計画を作成し、中心経営体の営農意欲向上に向け支援。
- 水路・法面等の保全機能強化と小規模農家の営農継続支援。非農家や福祉事業との連携で農地・里山の利用促進。
- 田舎暮らし営農モデルの確立。

- 行政との協働により公園等の活用促進。
- 地域内の名勝・観光施設を巡るコースの設定や情報発信。
- 地域資源や人材のフル活用に向けた取り組み強化。

- 公共交通確保と見守り・助け合い等の集落機能強化の融合による地域交通の確保。
- 公民館・公園等の拠点性の向上。
- 集落機能とそれを補完する自治機能強化に向けた組織再編や事務局機能（システム＋人材）の強化。

目指す方向性（将来ビジョンより）

- 「地域計画」の策定と推進機能の確立。
- 景観維持管理体制の再編と担い手確保。
- 中心的経営体の営農効率向上に向けた支援。

- 公園等の地域資源適正管理に向けた取り組み強化。
- 名勝旧跡等のトレールコース化に向けた取組強化。
- 地域資源（空き家・森林・伝統文化等）フル活用の取組強化。

- 地域交通の確保や持続可能性向上の取組強化。
- 子育て支援環境整備と交流拠点機能の充実。
- 自治機能強化と情報収集発信機能の充実。

推しポイント

自治会事業を推進する合同会社を設立して頑張っていますが、コロナ禍により、集い・話し合い・実践する機運が停滞しています。本事業に挑戦する中でリスタートを図りたいと思います。



守るべき農地をどのように決めるか？
(岡山県真庭市吉地区)

農村RMOモデル形成支援 吉地区 吉縁起村協議会（岡山県真庭市）



農産品、特産品の開発・販売による収益の確保、農用地の拡大によって、自立可能な集落へ。地域の拠点施設をコミュニティの場として維持・発展させ、地元住民の生活意欲向上へ。

#特産品開発、#ブランド化、#交流人口の拡大、#デマンド交通、#スマートストア、#遊休農地対策、#中山間直接支払、#鳥獣害対策

対象地域

- (事務局名)
吉縁起村協議会
- (地域の範囲)
真庭市吉（6集落）
- (土地面積（H9.12月時点）)
679ha
- (農地面積（R5.4月時点）)
22ha
- (世帯数（R6.1月時点）)
86戸

構成員

- ・岩坪・林集落協定
- ・地域おこし隊 吉縁起村
- ・地域おこし協力隊
- ・津田コミュニティ交通
- ・猟友会落合分会津田班
- ・真庭市落合振興局

活動に関連する他の施策

- ・地域おこし協力隊
- ・集落支援員
- ・市町村管理構想・地域管理構想策定推進対策事業
- ・「デジ活」中山間地域
- ・中山間地域等直接支払交付金

取組内容

現状と課題

農用地保全

- ・ 獣害（特にサル）対策の強化が不可欠である。
- ・ 中山間集落協定に参加していない地域住民管理の農地が多数存在する。
- ・ 耕作放棄地再生の順番待ち農地の草刈りを継続する必要がある。

地域資源活用

- ・ これまで地域で生産してきた「紅はるか」、「スイオウ」を加工して特産品化する必要がある。
- ・ 継続的に利益が上がるよう価格設定や販売方法の検討が必要。
- ・ 安定した財源を確保する作物の実証が必要。

生活支援

- ・ 地元農産品の弁当販売が好調だが、人手不足により大量生産が困難。
- ・ 直売所の販売力・利便性の向上に向け、農産物等の集荷体制の検討が必要。
- ・ 商業施設まで15km以上あり、地域にコンビニ等が必要。

課題に対する対応方針

- ・ 地元猟友会との連携推進や地元住民の獣害に対する知識を深めるとともに防護柵の効果的な設置を検討。
- ・ 農用地の各種情報収集。
- ・ スマート農機具の導入や農地の粗放管理の実施を検討。

- ・ 大学や地元企業等との加工・開発・販売について連携。
- ・ 直売所の販売力向上及びスマートストアやインターネット販売を検討。
- ・ ショウガの契約栽培実証を検討。
- ・ 小麦栽培を実証。

- ・ 大学との連携など多様な主体の参画を募り、調理場の拡張を進める。
- ・ デマンド交通の貨客混載による農産物等の集荷体制を検討する。
- ・ 小規模なコンビニや道の駅など、実現可能な小売店舗の形態を検討。

目指す方向性(将来ビジョンより)

- ・ 鳥獣害対策の強化。
- ・ 中山間直接支払対象農地の拡大。
- ・ 耕作放棄地の発生抑制及び解消。

- ・ 特産品の商品開発、継続的な生産販売。
- ・ 特産品や地域特産物を安定的に販売する販路の確保。
- ・ 地域特産物であるショウガの契約栽培実施により、財源の安定的な確保を図る。

- ・ 弁当販売の増産体制を構築し、直売所の販売力向上。
- ・ 無人キャッシュレスストアを多店舗出店し、複数店舗で黒字化を目指す。

推しポイント

一番大事なのは、地域住民が「生活が楽しい」と実感できること。地域が一体となって、「生き甲斐」と「幸福感」を実現する為、地域住民のクリエイティブ（創造）を否定すること無く実現していきます。



➤ 「粗放管理する農地」はどこ？

複数集落を対象とした持続的な土地利用（再編）のイメージ

- 人口減少や高齢化が急速に進行する中山間地域においては、近年、更に人口減少が進行し、集落コミュニティの脆弱化が懸念されるとともに、様々な政策努力を払ってもなお農地としての維持が困難な土地が増大。
- このため、地域の話し合いを通じ、守るべき農地を明確化し、従来の手法では維持困難な農地については、地域内外の新たな人材等呼び込みながら、放牧、蜜源作物、緑肥作物等、省力作物による粗放的利用等により農用地を保全。

(イメージ図)

話し合いの様子

地域おこし協力隊

U・Iターン

婦人会

畜産農家

狩猟ハンター

1 粗放的な利用による農業生産（燃料作物）

2 粗放的な利用による農業生産（緑肥作物）

3 粗放的な利用による農業生産（放牧）

4 鹿獣緩衝帯

5 農業生産の再開が困難な土地への植林

6 農業体験を通じた環境教育

7 福祉目的での農地利用（ユニバーサル農園）

8 粗放的な利用による農業生産（蜜源作物）

9 果樹（ナツメ）

公民館・社会教育関係者

子ども会・PTA

高齢者

養蜂家

飲食店経営者

担い手への集約

将来的な有機利用エリア（そば、緑肥作物等）

子供食堂

平場営農組織

担い手への集積・集約化が困難な農地について、農村RMOを中心に農用地保全に向けた土地利用を検討

- 担い手への集積・集約が困難な農地を粗放的に管理（農林水産省「農村RMO」）
- 人口減少や財政制約が継続する中で、全ての土地に労力や費用を投下し管理することは困難（国土交通省「国土の管理構想」）



この考えに従えば、「入道池」を廃止し、入道池の受益地を粗放作物の作付け地にするのが合理的。



経済合理性以外にも「維持する農地」と「粗放管理する農地」を区分する基準はあるのではないか？

- * 経済合理性だけだと、一方的な撤退にならないか？
- * 集落営農が考える「守るべき農地」と、農業法人が考える「引き受ける農地」は違う。

「温暖化で、平野部にいたトンボが吉集落にも上がってきている。止水域で生息し、移動範囲が狭いトンボは、**連続するため池が存在するからこそ、吉集落に避難できる**のではないか？（真庭市の自然保護観察員）

ビオトープの考え方

ビオトープ = 生物の生息・生育空間

様々な生き物が互いに関係をもって存続できる環境

→例えば、一定の景観の中の草地・川・林など、多様な野生生物の生息・生育を可能とする空間。

大小様々な生息・生育空間が維持され、復元され、創られ、また“つながり”をもつことで、人と自然の共生がはかられてきた。



*イメージ

ビオトープは、例えば、「再生された池」に代表されるものではない！

「農地」、「管理された森林」、「牧草地」や、こうした場どうしのつながりも、多様な生物の生息・生育として本来ビオトープとしてのポテンシャルを有している

バケツ一杯の水で、池の生物が分かる？

ため池の生き物を調べよう！

かいぼり調査

ため池の水を抜いて、たも網ですくって、どのような生物が生息しているかを調べる調査です。

いろいろ生き物をつかまえるよ！

環境DNA分析

ため池から「バケツ一杯の水」を汲んでDNAを解析し、どのような生物が生息するかを推定する調査です。

ため池の水をくんでまわるよ！

日時

2024年

10月19日 土

9:00～15:00 雨天決行

対象

真庭市在住の小中高校生

※小学校低学年は、保護者の同伴が必要です。

定員

20人 参加費 無料

昼食が必要な方
1,000円/おひとり
(申込時に要予約)

申込

こちらのQRコードよりお申込み
下さい >>>>>

<https://forms.gle/ubiHachq21uNS5qK7>



問合せ

0867-52-1111

真庭市落合振興局 担当:中島

行程

午前 ため池の生き物捕獲
昼食
午後 環境DNAについて解説
かいぼり調査の結果発表

▶
かいぼり調査
をする
入道池



集合

法福寺
(岡山県真庭市吉3945)

服装
持物

泥だらけになってもよい服装(長袖・長ズボン)、長靴、着替え、タオル、飲料水、帽子、虫除けスプレー

入道池には、ブラックバスしかいないのか？

それとも希少生物がいるのか？

最先端の「環境DNA」技術と、かいぼり調査を比較したら、結果に違いが出るのか？

真庭市にカルデラ湖が出現



地元の方が、21日
間かけて池の水を
抜いてくれた。



岡山理科大学学生と地元の小中高校生により生き物を採集



雨の中、ずぶぬれになりながら、採集



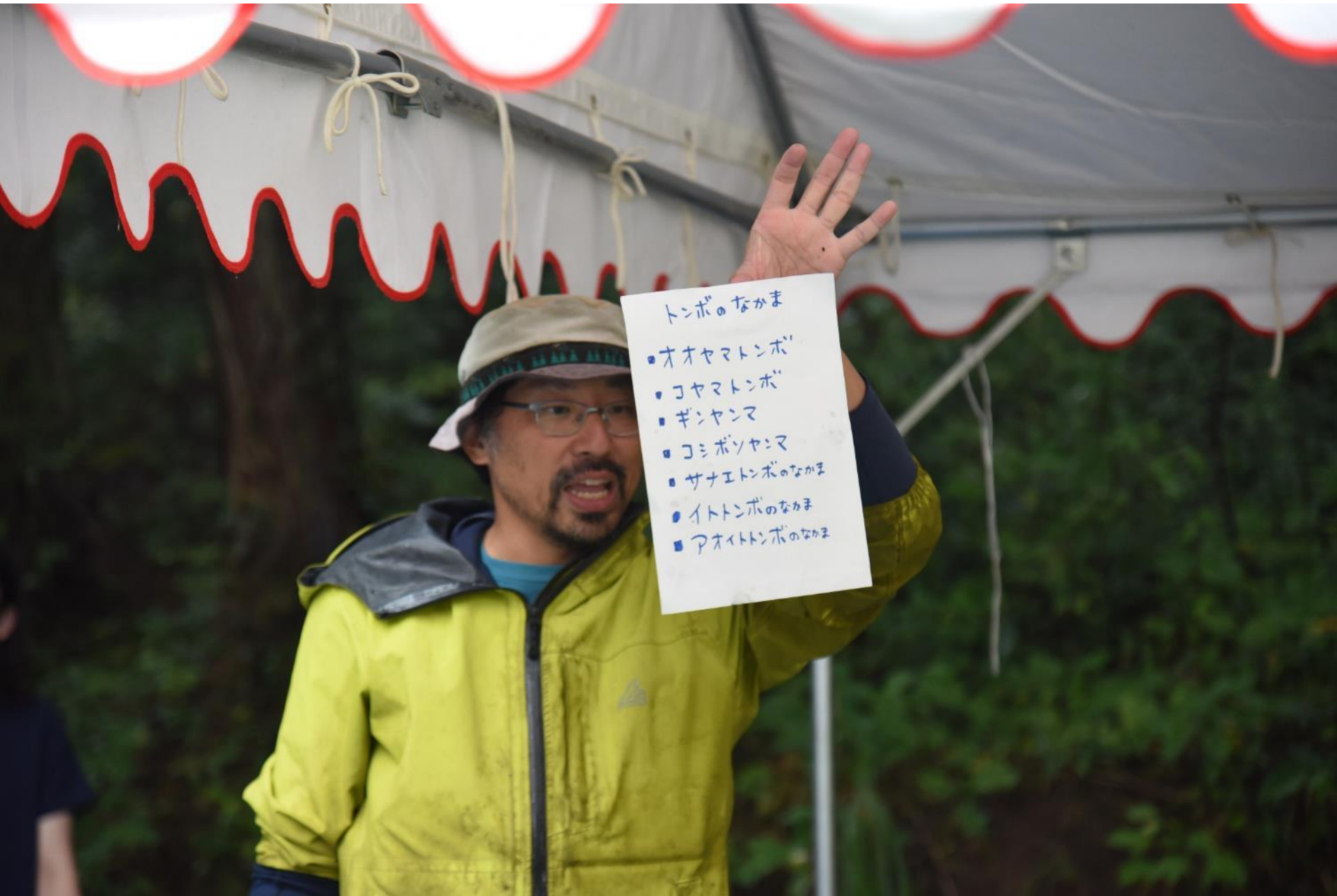
池の周りから見ていた親子も池の中に入り出した。



採集した生き物を同定



採集した生き物の発表会



トンボのなかま

- オオヤマトンボ
- コヤマトンボ
- ギンヤンマ
- コシボソヤンマ
- サナエトンボのなかま
- イトトンボのなかま
- アオイトトンボのなかま

ドジョウ



ウシガエル？



ジャンボタニシではなく、〇〇タニシ？（岡山県絶滅危惧Ⅱ類）



古来全国的にごく普通に見られ，マルタニシともども一般に広く親しまれた普通種であったが，戦後の低地の開発や稲作放棄等に伴う棲息環境の消失や排水・農薬等による水質汚染に代表される複合的要因によって急減し，多産する場所は少なくなった。

「岡山県レッドデータブック2020」

神戸大学の大学院生を先生に環境DNAの学習会



水路の水を1リットル採取



岩坪池の水も採取。



◆ ため池は、農村RMOメンバーの思い出の場所だった。

- 50年間池の水を抜いたことがなかった。
- コイやフナを釣って遊んだ。
- エビを素揚げにして食べた。サワガニもおいしかった。
- ため池で泳いだ。
- 石投げをした。

◆ 農薬が流入しない山上のため池は、生物多様性の宝庫なのではないか？

◆ 生き物好きの若者との交流の場となった。



無用の長物として扱おうとしていた「ため池」は、地域資源になり得るのではないか？

RMOは地域の構造をどのように変えるか？ (富山県立山町釜ヶ泷地区)

- 富山県の県・市町村職員の研修として、農村RMOの先行事例である「釜ヶ泷みらい協議会」を事例解剖。
 - ・ 5年間で地域はどのように変わったのか？
 - ・ その変化に、地域住民、移住者、役場職員等がどのようにかかわったのか？

農村RMOモデル形成支援 釜ヶ淵地区 釜ヶ淵みらい協議会（富山県立山町）



新規就農者の受け入れや育成を進め、移住者の増加 → 再生農地拡大 → 地域資源の生産量拡大の好循環を作り上げ、地域を元気に！

#新規就農者、#遊休農地の活用、#地域資源の販売、#農泊、#農地利活用調査

対象地域

(事務局名)
釜ヶ淵みらい協議会事務局

(地域の範囲)
小学校区（8集落）

(土地面積（R6.4月時点）)
824ha

(農地面積（R6.4月時点）)
465ha

(世帯数（R6.4月時点）)
639戸

構成員

- ・釜ヶ淵地区自治振興会
- ・釜ヶ淵公民館
- ・農業委員
- ・最適土地利用推進員
- ・釜ヶ淵地区青年団
- ・地域おこし協力隊
- ・横山ファーム
- ・白雪農園
- ・社会福祉協議会釜ヶ淵支部
- ・立山グリーンパーク吉峰
- ・協議会を支援する団体・個人

活動に関連する他の施策

- ・地域おこし協力隊
- ・農村プロデューサー養成講座
- ・最適土地利用総合対策
- ・多面的機能支払交付金

取組内容

現状と課題

農用地保全

- 基盤整備されていない農地が地区中心部に広がっている。
- 農業の担い手の減少により耕作放棄地が増加している。

地域資源活用

- 地域資源が把握できていない。
- 来訪者に対して地域資源を提供する場がない。
- 来訪者と地域住民が交流できる場がない。

生活支援

- 各集落を結ぶ公共交通機関がない。
- 生活用品を販売する店舗がない。
- 地域住民が気軽に交流できる場がない。
- 平成7年から25年間で高齢化率が17.9%上昇している。
(H7:20.2% → R2:38.1%)

課題に対する対応方針

- 遊休農地の再生・利活用（コミュニティガーデン・農業体験・市民農園）。
- 新規就農者の育成（立山農学校）。
- 農地を管理し、就農者受け入れを行う農業法人の設立。

- 地域の交流拠点施設の運営（釜カフェ・農産物販売・交流イベント）。
- 新たな地域資源作物の生産実証。
- 地場農産物の加工品試作。
- 農泊事業の実証・連携強化。

- 交流拠点施設でのイベント開催（健康体操・子ども体験教室・地域マルシェ）。
- ICT活用による高齢者支援。
- 里山の自然・暮らしを活かした子育て教室（里のようちえん）。

目指す方向性(将来ビジョンより)

- 地域の農地を適切に保全・利用していく方法を模索し、実践する。
- 将来的な担い手の育成に向けた体制を整える。

- 農産物・自然・文化等の地域資源を活かして、産業づくり(体験・商品化)や魅力づくり(来訪・移住)のアイデアを実証し、持続した地域の活性化を目指す。

- 地域で安心して生活ができる環境づくりに向けて、暮らしのサポートや支え合う地域づくりに取り組む。

推しポイント 若い世代を主体として多様な構成員が連携し、新規就農者を農地再生のキーパーソンに！



集落の荒廃農地を活用したコミュニティガーデン



写真：わがまちふるさと創生HPより転載

農協倉庫跡を活用した食堂・交流施設



- ✓ 施設の備品は地域住民が持ち込み。
- ✓ 昼間からビール、カラオケ。
- ✓ 社協の活動場所は公民館の2階から、平屋の釜の蔵に移転。



新規就農者が開設した「白雪農園」



ポニーが荒廃農地の草を食べる。自然農法のお米。



古民家を改修した「宿坊立山」。



農村RMOの活動にどんな人が関わってきたのかをヒアリングし、まとめる。



釜ヶ泷の4年間の発展過程を各グループから発表。



地域の人口減の要因、人口増のための町の施策を地図に落とす。



利田地区に宅地造成が行われており、人口が流出している。

利田地区には工場団地もある

若者向けの職場が少なく、富山市への移住が進んでいる。

釜の蔵と設置したことで地域交流の拠点となっている。

住民の生きがい・働く場となっている
(地元産野菜の販売など)
コミュニティセンター活用

町営住宅が整備され子育て世代に支援制度が充実している

子育て世代の町営住宅への入居支援制度とPR活動
(家賃の9割を補助)

買い物できるスーパーがない

初動スーパーの運行
(コンビニに代わり)

町営バスが巡回していないため、免許を持たない人の移動手段は地铁の釜ヶ淵駅の利用者
1日あたり70人程

保育園が統合された
・小学校児童数40人程
2・3年で複式学級となる

住民の足(高齢者向け)デマンドタクシーの運行など交通手段の検討はして?

自営農園を始めたことにより、外からの関係人口交流人口が増えている

R5~里のようちえんが
始まる
年間を通して交流

里のようちえんから里の小学校へ引きつづき学び(地元資源を活用しふるさとを学ぶ教育)

若い世代の定住促進を考えた時にインパクトのある補助金制度があればいいと思ってる
富山市に近い

・上市町
・立山町
・舟橋村
・滑川市

子育て支援制度
保育料の見直し
第2子半額
第3子無料
この検討

農泊センターを活用して、都市部の学生に働きかたて行く
釜ヶ淵... 活用

- 多面的機能支払いは農政の課題だと思っていた。
- だが、農村RMOに取り組む中で、地域の人と人のつながりを再構築するための手段であり、財源であると気が付いた。

